

研 究 会 開 催 通 知

(昭和 56 年 1 月 15 日～2 月 28 日)

研 究 会	日	時	会 場	備 考
データベース管理システム	1 月 16 日(金)	14: 00～17: 00	機械振興会館	前号参照
人工知能と対話技法	1 月 17 日(土)	10: 00～17: 00	阪 大	同 上
医 療 情 報 学	1 月 17 日(土)	14: 00～17: 00	機械振興会館	下記参照
コンピュータビジョン	1 月 22 日(木)	11: 00～17: 00	国立民族学博物館	前号参照
マイクロコンピュータ	1 月 26 日(月)	13: 30～17: 00	機械振興会館	同 上
計 算 言 語 学	2 月 6 日(金)	9: 30～17: 30	京 大 会 館	下記参照
ソフトウェア工学	2 月 12 日(木) 2 月 13 日(金)	10: 00～17: 00 9: 30～17: 00	九 大	同 上
電子装置設計技術	2 月 17 日(火)	14: 00～17: 00	機械振興会館	同 上
計算機アーキテクチャ	2 月 17 日(火) 2 月 18 日(水)	13: 30～17: 00 9: 00～14: 00	広 島 大	同 上
分散処理システム	2 月 18 日(水)	14: 00～17: 00	第 32 森ビル	同 上

◆ 第 8 回 医療情報学研究会

(主査: 大島正光, 代表幹事: 稲田 紘, 溝口文雄, 開原成允)

日 時 昭和 56 年 1 月 17 日(土) 午後 2 時～5 時
会 場 機械振興会館 地下 3 階研修 1 号室
 [東京都港区芝公園 3-5-8, 地下鉄: 日比谷線神谷町, 浅草線大門, 都営 6 号線御成門下車, 国電: 浜松町下車, バス: 渋谷ー東京タワー線東京タワー, 等々力ー東京駅八重洲線虎ノ門 5 丁目下車, Tel. 03 (434) 8211]

議 題 医療における医薬情報処理

- (1) 医薬に関する情報処理の最近の動向 久保文苗(日本医薬情報センター)
- (2) 病院における医薬情報処理 伊藤一二, 酒井忠昭(都立駒込病院)
- (3) 薬局における医薬品情報処理 水野陸郎(水野薬局)
- (4) 医薬品のデータベースとそのサービス体制
川村 昇(都老研), 斉藤侑也(東大・薬剤部)
- (5) 医薬品の文献に関する情報処理 角田喜治(タケダ薬品)

◆ 第 25 回 計算言語学研究会

(主査: 和田 弘, 代表幹事: 西村恕彦, 田中穂積, 野崎昭弘)

日 時 昭和 56 年 2 月 6 日(金) 午前 9 時半～午後 5 時半
会 場 京大会館 2 階 211 号室
 [京都市左京区吉田河原町 15-9, 国鉄: 京都駅下車(北口), 市バス 206 番東一条]

議 題

下車，徒歩5分。Tel. 075 (751) 8311]

(1) 専門用語の自動抽出 田中康仁 (日本ユニバック)

〔概要〕 英語の専門用語の品詞構成について分析し、英文と日本語の対応したファイルから専門用語を抽出する手法について述べる。

(2) シナリオを用いて、構造化されたキーワードをアブストラクトから抽出する手法 堀 浩一，斉藤忠夫，猪瀬 博 (東大・工)

〔概要〕 あらかじめ定められたフレームにあてはめる事により，キーワードを文献のアブストラクトからトップダウンに抽出する方式を提案し，その方式の有効性を実験により確認した結果を報告する。

(3) MDS による日本語入力と編集処理について 坂本義行 (電総研)

〔概要〕 仮名の有する操作性に着目した入力方法を複数画面からなるグラフィック・ディスプレイによる並列的な編集機能を有する日本語ワードプロセッサについて述べる。

(4) 仮名漢字変換のための文法解析

大河内正明，藤崎哲之助，諸橋正幸 (日本アイ・ビー・エム)

〔概要〕 仮名漢字変換のためのバックトラッキング不要で，辞書にない外来語も推定できる特徴をもつ形態素解析について報告する。

(5) 分類番号つけ支援システム 中野 洋 (国立国語研究所)

〔概要〕 分類語彙表改訂における分類番号つけの自動化を検討する。漢字情報および構文情報を利用する方法を提案する。

(6) 表方式を用いた文節構造分析アルゴリズムとその能率について

吉村賢治，日高 達，吉田 将 (九大・工)

〔概要〕 日本語の文節を構成する単語の並びを規定す文節構造規則のみを用いて入力文の文節構造を分析する表方式によるアルゴリズムを与え，その能率を求めた。さらに，これを用いて文節数を最少にする分析のなかに，正しい分析が存在する可能性が大きいことを実験により確めた。

(7) 計算機マニュアルを対象とした日英機械翻訳システムにおける日本語文の解析 長尾 真，辻井潤一，森 正裕，久米雅子 (京大・工)

〔概要〕 計算機マニュアルを対象とした日英機械翻訳システムの全体構成と，日本語文解析の手法について述べる。マニュアル文固有の文体構造規則と動詞の格構造記述が解析過程で適宜参照され，英文生成のための日本語中間構造を作り出す。

(8) 計算機マニュアルを対象とした日英機械翻訳システムにおける英文の生成

長尾 真，辻井潤一，畑崎香一郎 (京大・工)

〔概要〕 日英機械翻訳システムにおいて，日本語中間構造からトランスファ，変形過程を経て英語表層文を生成するための手法について述べる。トランスファ過程で用いる二言語間対照辞書構成と現在までに作成した英語変形規則の詳細と今後の問題点を述べる。

(9) 京大・長尾研究室の見学 (18:00～)

* なお，翌2月7日(土)京大会館に於て“モンテギュー文法”関連のシンポジウムが開催されます。お問合せは東工大・情報工学科榎本研究室の村田賢一氏(Tel. 03(726)1111)までお願いいたします。

◆ 第 17 回 ソフトウェア工学研究会

(主査：国井利泰，代表幹事：大野侑郎，原田賢一，斉藤信男)

日 時 昭和 56 年 2 月 12 日 (木) 午前 10 時～午後 5 時

2 月 13 日 (金) 午前 9 時半～午後 5 時

会 場 九州大学工学部情報工学科 S 414 講義室

〔福岡市東区箱崎 6-10-1，博多駅から，西鉄バス系統 10 番九大前行 終点下車，または系統 15 番，85 番貝塚行 箱崎松原下車，福岡空港からタクシーで 10 分。Tel. 092 (641) 1101〕

議 題 ソフトウェア開発環境とその評価

2 月 12 日 (木)

(1) 抽象プログラム・モデルと機能写像

谷津行穂，大場 充，滝本法良，門田富史 (日本アイ・ビー・エム)

〔概要〕 プログラムの制御の流れを pd オートマトンで記述し，設計の見通しを向上させるモデルを提示する。

(2) FS (Flow Sketch) 法による要求定義技術

松本良治，谷 昌之，山本昌彦 (日立 SK)

〔概要〕 FS 法は要求定義に対する実際的な手順を含めた方法論として開発した。実際に扱うデータを中心とし要求仕様モデルが図式化されているため理解し易く，システム開発者とユーザとの意志の疎通にも有効である。

(3) 火力発電制御システム向け要求定義システム CASAD 1

松村一夫，杉八合勲，稲垣浩子，河井研介 (東芝)

〔概要〕 制御用計算機への入出力点を定義する I/O リストの作成作業を支援し，客先提出用日本語リポート等をも作成できるシステムについて報告する。

(4) 要求仕様記述言語 PSL の日本語化

村井 純，戸田賢二，斉藤信男 (慶大・工)

藤崎哲之助，諸橋正幸，戸沢義夫 (日本アイ・ビー・エム)

〔概要〕 要求仕様記述言語 PSL を日本語に翻訳し，その解析システムを試作した。本システムの要求仕様を例として，日本語版 PSL の記述性，システムの使い心地などについて評価する。

(5) ソフトウェア開発・保守支援システム PDB 落水浩一郎 (静岡大・工)

〔概要〕 複数のプロジェクトを有する組織のためのソフトウェア開発，保守支援に関して，設計情報の生成，検索，更新また共有，分配，保護等におけるいくつかの問題点とその解決策を示し，その支援システム PDB の構成を示す。

(6) PDB における設計，改良支援ツール DS

酒井三四郎，玉井友和，落水浩一郎 (静岡大・工)

〔概要〕 ソフトウェア設計作業における設計情報の生成，更新等を会話的に支援するツール DS の方法論，システム機能について述べる。

(7) SDD サポートシステム 福島弘道，杉本正勝，鵜飼直哉 (富士通)

〔概要〕 二次元の図面に基づくソフトウェアの開発法：SDD (Software Diagram Description) のサポートシステムに関する考え方，実際の例，使用経験等について述べる．

(8) プログラム作成支援システム π の構造エディタ

車谷博之，中本幸一，萩原兼一，荒木俊郎，都倉信樹（阪大・基礎工）

〔概要〕 π システムは人間の持つアルゴリズムの概念にできるだけ対応した抽象構文によるプログラム記述を中心としたプログラム作成支援システムである．このシステムの概要と，特にエディタについて述べる．

(9) マイクロコンピュータのパーソナルコンピュータ化への一過程

土居範久（慶大・情報科学研究所），越 秋雄，松井弘樹（慶大・工）

〔概要〕 Cromenco を単一ジョブ，多重プロセスシステムに変更する途中経過および端末としての効用について報告する．

(10) 多重プロセス環境の支援システム 大和喜一（慶大・工）

〔概要〕 複数のプロセスが協同して動くシステムの設計，調整などを行うために必要な機能を含めたプロセスの生成，制御を行うシステムを設計，製作する．

2月13日（金）

(11) 構造化 COBOL の実用化 関栄四郎，二階堂徳也（鉄研）

〔概要〕 CODASYL 78 COBOL に盛り込まれている構造化プログラミング機能をプリコンパイラ形式で実現し実務で使用した．インデントーション等を現実に適用した場合に生ずる問題点の解決策を主体に述べる．

(12) プログラム移換作業からみたプログラミング環境の評価

牛島和夫，田町典子（九大・工）

〔概要〕 ソースファイルの形式で入手した 50 余のプログラムパッケージ（それぞれ異なる環境のもとで作成された）の移換作業の経験からみた計算機使用環境を評価する．

(13) プログラミング環境とプログラマの心理について

有澤 誠（山梨大・工）

〔概要〕 Newell 流の Thinking Aloud 実験を用いて，プログラマの心理に関する調査を行っている．最近の一連の実験では，特にプログラミング環境による心理の影響について調べており，その結果を報告する．

(14) 社内業務プログラム開発のための環境整備と生産性

久保未沙（日本アイ・ビー・エム）

〔概要〕 IPT/TSO，プロジェクト管理，ディクショナリその他による環境整備と生産性向上などについて述べる．

(15) エンドユーザによる開発のためのツールと環境 菊田泰代（富士通）

〔概要〕 システム開発の生産性および即応性向上のためのひとつのアプローチとして，システムの利用者＝エンドユーザ自身による開発を取り上げ，そのために必要なツールと環境について，事例と考察を報告する．

(16) 複数画面知能端末を用いたプログラミング環境の設計と実現について

大蒨和仁，真野芳久，鳥居宏次（電総研）

〔概要〕 複数画面を有する知能端末を用いて、プログラム作成を支援するシステム (MDPS) を作成した。MDPS の設計思想と、その実現方法について述べる。

(17) 日本語ファイル用ソフトウェアツール 藤村直美, 牛島和夫 (九大・工)

〔概要〕 日本語ファイルを手軽に扱うためのソフトウェアツールについて、従来の英数字ファイル用のものと対比して実現上の問題点、使い勝手等を中心に述べる。

(18) パネル討論「ソフトウェア生産の総合環境」

(司会) 牛島和夫 (九大・工)

東 基衛 (日電), 河田 汎 (富士通), 国井利泰 (東大・理)

野木兼六 (日立), 和田英一 (東大・工)

◆ 第 8 回 電子装置設計技術研究会

(主査: 加納 弘, 代表幹事: 伊藤 誠, 上田 勤)

日 時 昭和 56 年 2 月 17 日 (火) 午後 2 時～5 時

会 場 機械振興会館 地下 3 階 1 号室 (所在地は前記参照)

議 題 (1) 汎用 LSI のレイアウト設計システム (SHARPS) について

奥田 登, 千葉 徹, 神戸尚志, 西岡郁夫, 犬伏恒勇, 木村征二 (シャープ)

〔概要〕 汎用 LSI のための階層的レイアウト設計システムについてその構成を紹介する。

(2) MILD-MOS LSI のためのセル方式レイアウトシステム

佐藤興二, 永井隆夫, 下山博義, 尾崎 傑, 八原俊彦 (三菱電機)

〔概要〕 MOS LSI の設計のために、メモリのようなマクロセルを取扱うことができるセル方式レイアウトシステム MILD について紹介する。

(3) 構造展開と機能シミュレータ 和田義也, 伊藤 誠 (山梨大・工)

〔概要〕 階層的に定義された論理構造を必要なレベルまで展開し、それを、別に定義された機能定義により論理シミュレーションするシステムを紹介する。

◆ 第 32 回 計算機アーキテクチャ研究会

(主査: 石井 治, 代表幹事: 有澤 博, 内田俊一)

日 時 昭和 56 年 2 月 17 日 (火) 午後 1 時半～5 時

2 月 18 日 (水) 午前 9 時～午後 2 時

会 場 広島大学工学部 第一会議室

〔広島市中区千田町 3-8-2, 国鉄広島駅前より, 市内電車^{うじな}字品行 広電本社前下車徒歩 1 分, Tel. 0822 (41) 1161〕

議 題 2 月 18 日 (水)

(1) 実行時翻訳方式高位言語プロセッサ 菅 隆志, 上田尚純 (三菱電機)

〔概要〕 コンパイラが出力する高レベルの中間命令よりなるプログラムを、実行時に、より低位の機械命令に変換し、変換された機械命令プログラムをハードウェアで実行する方式の高位言語プロセッサについて、実現方法、性

能, 利点等を述べる.

(2) 2進木構造並列処理システム Coral のプロトタイプとその OS

若林直樹, 信友義弘, 近藤喜久馬, 高橋義造 (徳島大・工)

〔概要〕 7台のマイクロコンピュータを2進木状に接続した Coral プロトタイプ, およびその分散システム向き要求駆動型 OS について述べる.

(3) 疎結合計算機システムにおける高速計算機間通信方式

中野良平, 森 道直 (横須賀通研)

〔概要〕 チャンネルを介して結合される疎結合計算機システムの高速な計算機間通信方式について, その特徴, 構成法, 性能などを述べる.

(4) 実験的コンピュータネットワーク (PHENICS-I) について

吉田典可, 菊野 亨, 角田良明, 若林真一 (広島大・工)

〔概要〕 コンピュータ間のメッセージ転送をパケット交換方式で, しかも多経路方式のルーティングで行う学内の実験的ネットワークのハードウェア構成とプロトコルについて報告する.

(5) 2レベルマイクロプログラム制御計算機 MUNAP における非数値処理について

馬場敬信, 石川 賢, 奥田健三 (宇都宮大)

〔概要〕 MUNAP を非数値処理の基本問題に適用した結果に基づいてアーキテクチャの評価を行うとともに, 応用分野について検討する.

2月19日 (木)

(6) 非同期並列ニュートン法専用データ駆動マルチプロセッサ・システム

藤田昭平, 笠井 宗, 鈴木俊伸, 深屋 毅 (東工大・工)

〔概要〕 非同期並列ニュートン法のアルゴリズム, 収束条件, 専用データ駆動マルチプロセッサについて報告する.

(7) ハイレベルデータフロー型並列処理計算機の検討

阿江 忠, 高橋浩一, 松本健治, 相原玲二, 天満尚二 (広島大・工)

〔概要〕 プロシジャ単位でのデータフローマシンのパイロット・モデルについて報告し, コスト性能を議論する.

(8) リスト処理向きデータフローマシン・アーキテクチャと, そのソフトウェア・シミュレーション

長谷川隆三, 三上博英, 雨宮真人 (武蔵野通研)

〔概要〕 リスト処理向きデータフローマシンのアーキテクチャを提案し, その諸特性についてソフトウェアシミュレーションの結果を報告する.

(9) 意味論をとり入れたデータベース・システム

福居文継, 有澤 博, 土肥康孝 (横浜国大・工)

〔概要〕 データベースにおける意味表現と, それをとり入れた新しいデータモデル AIS について述べる. またそれを実現するシステムおよびデータベース・マシンのシミュレータについて述べる.

(10) ARES の関係モデルへの応用

平川正人, 上林憲行, 市川忠男 (広島大・工)

〔概要〕 連想プロセッサ ARES の関係モデルへの応用について検討を行った. 問合せの条件節にあいまい性を許すことによって user's view に近い, より柔軟な検索方法を提案する.

(11) データ分配ネットワークを用いたデータベース計算機の構成法

小田泰充（武蔵野通研）

〔概要〕 データ分散ネットワークを用いたデータベース計算機の構成法およびその特性について報告する。

＊ 今回の研究会は、電子通信学会電子計算機研究会と共催で開催いたします。上記の会合は12月5日現在の申込によるもので、それ以後の申込みを含めたプログラムは電子通信学会誌1月号に掲載されますのでご了承下さい。

◆ 第8回 分散処理システム研究会

（主査：元岡 達，代表幹事：田中英彦，村上國男）

日 時 昭和56年2月19日（木）午後2時～5時

会 場 第32森ビル 地下2階第一会議室

〔東京都港区芝公園 3-4，地下鉄：日比谷線神谷町，浅草線大門，都営6号線御成門下車，国電：浜松町下車，バス：渋谷－東京タワー線東京タワー，等々力－東京駅八重洲線虎ノ門5丁目下車，機械振興会館並びに浜松町寄り徒歩1分，東京タワー向い。Tel. 03 (591) 1351（大代表）〕

議 題 (1) ある分散処理に於ける呼の保全性 槻木公一（国鉄）

〔概要〕 旅行計画をたてる場合，交通手段である列車の予約のみならず，旅館の予約，レンタカーなどが必要になる。この在庫を管理するシステムは分散して別々に存在するが，総合的な全体の予約を取扱う場合の要求呼の処理の保全性について述べる。

(2) 開放型システム間相互接続標準化の国際動向について

元岡 達（東大・工），苗村憲司（横須賀通研）

〔概要〕 ISO TC 97 SC 16 第3回総会が1980年11月に西ベルリンで開かれた。その出席を基に，OSI の標準化動向について述べる。

(3) 網向きプロセス間通信制御プロセッサの構成

和賀井フミ子，和田哲郎，小森 齊，田中英彦，元岡 達（東大・工）

〔概要〕 網処理に向いた OS でプロセス間通信機能をサポートするような CCP を構成したので，これを検討した結果を報告する。

情報処理学会第 22 回（昭和 56 年前期）全国大会概要と 論文集予約ご案内

日 時 昭和 56 年 3 月 24 日(火) 9:30~17:00, 25 日(水) 9:00~17:00,
26 日(木) 9:00~17:00

会 場 学習院大学〔豊島区目白 1-5-1, 国電山手線: 目白駅下車〕

参 加 費 会 員 1,000 円 (賛助会員は 1 口 1 名として正会員に準じます.)
非会員 2,000 円

論 文 集 代 定価 5,500 円 (予約価 4,500 円)
(当日, 予約者以外にお頒けできるのは, 残部のある場合に限りです.)

論文集予約 予約 (3 月 2 日締切) を原則としますので, 本号綴込みの申込書をご利用くだ
さい.

講演次第

特別セッション

特別講演 (1 件) (3 月 24 日 10:00~11:00)

社会の成熟化と情報化社会……………林 雄二郎 (未来工学研究所)

招待講演 (1 件) (3 月 25 日 12:30~13:30)

ジョセフソン効果とその応用素子(特に論理素子)……………菅野 卓雄 (東京大学)

パネル討論 (2 件) (3 月 26 日 12:30~14:30)

ソフトウェア工学(仮題)……………(司会) 大野 豊 (京都大学)
(3 月 26 日 14:45~17:00)

オフィスオートメーションの課題……………(司会) 三浦 大亮 (東 京 大 学)

一般セッション (研究論文 553 件)

詳細は次号 (2 月号) 大会プログラムにてお知らせいたします.

情報処理学会関西支部主催

「オフィスオートメーションの将来を探る」セミナー (案内)

と き 昭和 56 年 1 月 29 日 (木), 30 日 (金)

と ころ (財)関西情報センター会議室

時間がありませんので, 下記の電話で確認のうえ, お申込みください.

情報処理学会関西支部事務局〔関西情報センター内〕 電話 大阪 (448) 6636

詳細は, 「情報処理」Vol. 21, No. 12, p. 127 会議案内欄をご参照ください.

欧文誌の原稿募集について

1978年4月に欧文誌“Journal of Information Processing”を創刊いたしました。同誌に論文発表を希望される会員は、下記を参照のうえ原稿を寄せられるようご案内いたします。

1. 欧文誌発行の目的

わが国の情報処理の研究水準向上のため、情報処理に関する諸研究の国際交流をはかる。

2. 発行計画

(1) 50ページ×4回/年=200ページ, A4判

(2) 純学研究発表誌とし、Paper と Short Note を募集する。

(i) Paper (原則として刷上り8ページ以内)——「情報処理」掲載の論文と同じ査読規準に基づき、欧文誌編集委員会で採録を認められた欧文論文。

(ii) Short Note (2ページ以内に限る)——「情報処理」掲載のショート・ノートに準じて、採録を認められた欧文による小論文。

3. 「情報処理」との関連

Paper と Short Note の和文アブストラクトを「情報処理」に掲載する。

4. 論文原稿の書き方

(1) 用紙はA4判(21cm×30cm)の白紙を使い、1行65ストローク、ダブルスペースで上下3cm(強)の余白を残し、パラグラフは初めを5~6字分あける。この様式で原稿をタイプした場合(図表なしで)24枚で、欧文誌刷上り8ページに当る。なお文章中指定のない場合の記号は立体、数式中の記号は斜体(イタリック)となる。

(2) 査読の都合上、タイトル、氏名、所属およびアブストラクトを和英両語で別紙に記述する。なお和文アブストラクトは英文アブストラクトの邦訳とする。

(i) Paper のアブストラクト——200語以内

(ii) Short Note のアブストラクト——50語以内

(3) 図表(写真を含む)は、完成図(そのまま縮小製版できるもので、縮版した場合の希望のできあがり寸法を指定する。なお、文字は縮版のさいも読める大きさに書く。)を本文と別にし、説明文は別紙にまとめてタイプし、本文の末尾につける。ただし原稿中に図表のそう入場所を指定する。

(4) 寄稿のさいキーワード表を添付する。(用紙は欧文誌係にご請求ください。)

5. 原稿の送付

(1) コピー4部を送付する。

(2) 送付先: 情報処理学会「欧文誌係」

〒105 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館 308-3 号

6. 別刷料

下記の通り別刷100部を印刷実費の一部として、ご負担いただきます。

ページ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
別刷料	5,000	10,000	15,000	20,000	25,000	30,000	35,000	40,000	55,000	70,000